

本校の人権教育の目標

- 地域の実態や生徒の発達段階を考慮しながら、学校の教育活動全体を通して、人権尊重の精神の涵養を図る。
- 人権感覚や人権意識を自然と身につけることができる人権教育の整備・充実を図る。

本校の人権教育の視点

- 「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができる生徒の育成に努める。
- 生徒の発達段階に即した指導目標を設定する。
- 将来への夢・目標を持ち、自分の進路を自ら選択できる職業観・勤労観を育てる。

I 実践

1 実践テーマ

友達を大切にし、協力し合う心や相手の立場を尊重し、公平に接することができる生徒の育成

2 「あいさつ運動」の実践

本校のあいさつ運動は、生徒会本部を中心に、各学期に1度、1週間～2週間程度の期間に行われる。本年度は、1学期が「好きな給食のメニュー」によるグループ、2学期が、各クラスごとによるグループで行われた。

1学期の好きな給食のメニュー別グループは、教職員も含め全校一斉にアンケートをとり、選んだメニューに合わせてグループを決定し、あいさつ運動を行った。

学年や学級の区切りがなく、全校生徒が交わるグループであいさつ運動を行ったことで、他学年との交流をもつことができ、先輩は後輩の手本として、後輩は先輩に習い、お互いに協力し合いあいさつ運動に取り組むことができた。また、あいさつ運動の実施場所を、昇降口、プレハブ校舎入口、正門前、西門前と数か所に分けたことにより、あいさつの輪を学校に広げることができた。

2学期の各クラスごとによるあいさつ運動は、9学級、9日間にわたり実施された。学級ごとに行ったこのグループによるあいさつ運動は、「学級全員であいさつ運動に取り組もう」という学級の団結力を深める一助となった。



あいさつ運動の取り組みの様子



3 道徳教育の実践

題材：「行為の意味」 宮沢 章二

目標：宮沢章二の詩を通し、思いやりや心遣いについて考え、相手を尊重する態度を育てる。

展開：「心遣いが見えるときはどんな時か」、「思いやりが見えるのはどんな時か」について自分のこれまでの経験を振り返る。自分がその行為をされたときどのような気持ちになったかを振り返り、相手を思いやる気持ちや心遣いについて考えを深めることができた。

～生徒の感想から～

- ・ この授業を通して、自分も相手に「ありがとう」などと思われるようにしていきたい。
- ・ 私が思いやりや心遣いが見えることをしてもらってうれしいし、自分もしたらいい気持ちになれると思います。今日は自分の事も振り返れたし、友達のいいところも知ることができました。
- ・ 私はよく、心では思っているけど、行動に示せないときがあります。それはたぶん勇気がなかったからだと思います。これからはクラスの人以外の人や知らない人でも声をかけられるような勇気ができるようにしたいです。



II 今後の課題

生徒一人ひとりの人権意識を高めるためには、日常生活の中での意識付けが大切である。あいさつ運動では、他学年との交流を通し、先輩や後輩といったそれぞれの役割を果たし、お互いに認め合い尊重し合うことができた。また、学級として活動することで、学級の一員なんだという所属感を得ることができ、あいさつを交わすことを通し、自己肯定感を育むことができた。

道徳教育の実践では、「相手の立場に立って考える」ということについて、考えを深めることができた。これが道徳の時間のみならず、学校教育全体でその意識付けを図っていきたい。

人権教育は特別な教育ではなく、学校教育全体を通して行う教育活動である。教師も人権教育への意識を高め、共通理解のもと人権教育を推進していくように、研究や研修を充実させていきたい。学校教育を通し、生徒一人ひとりの人権意識を高め、実践できる態度を育てていきたい。